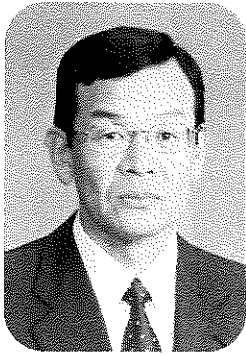


今年度を振り返って



栃木県中学校長会長
宇都宮市立旭中学校長
清水 昭 二

今年度も残すところ、あとわずかとなりました。年度末を控え、卒業式などに向け各学校とも準備を進めているところかと思えます。

県校長会の今年度を振り返りますと、まず栃木大会の開催が上げられます。昨年の6月、関東10都県から861名の会員が参加して、日光市鬼怒川で「第62回研究協議会」が行われました。

栃木大会は、できる限り時間的にも予算的にも会員の負担を軽減したいとの思いから、3年前という早い時期から準備を進めてきました。また、効率的な運営のため、シャトルバスなどの移動手段を準備せずとも大会ができるよう、全体会と分科会を同一で行える会場設定をしました。そのため、19年夏には会場の仮予約を、また、同年度末の理事・協議員会では推進委員会を立ち上げました。

以後、推進委員会を中心に推進要項や運営要項を作成し、関東地区校長会の承認を受けつつ基本構想を固め、21年4月には実行委員会を組織しました。その間、研究部が中心となり各地区で多くの話し合いが持たれ、発表の準備が進められてきました。お

陰をもちまして、大会はすばらしい発表と、スムーズな運営が行われ、各県からもお褒めの言葉をいただきました。また、昨年10月に高知市で行われた全国大会では、上都賀地区が県を代表して発表していただきました。会員の皆様のご協力に、改めて感謝申し上げます。

さて、現在の教育情勢を見ますと評価制度の本格実施や主幹制の導入、加えて新指導要領の実施に向けての時数の増加など、新たな課題が次々と出てくるという感が否めません。また、各地区では、地区特有の課題も抱えており、依然好転しない経済状況とあいまって、教育情勢は厳しいものがあります。

この中で、県校長会としましては、県教育委員会をはじめとする関係諸機関と意見を交換しつつ、その中で、校長会の考えも伝え、私たちの声を行政に反映させていきたいと考えます。そのためには、小学校長会・中学校長会との連携もさらに深めていきたいと思えます。

校長会の存在が、県教育行政の中で多方面に影響力を持ちえている最大の要因は、県内全中学校の校長が加盟している組織であるという点に尽きると思えます。そして、各校長の後ろには教職員がおり、その後ろには多くの生徒と保護者の存在があることを私たちは忘れてはならないと思えます。

2年間支えてくださった会員の方々に感謝申し上げますとともに、次年度以降の更なるご協力をお願いいたします。

事務局だより

平成21年度から22年度にかけて、本県中学校長会事務局は3種類の事務局を担ってきました。

その一つ目は、関東甲信越地区中学校長会の事務局です。平成21年3月5日(金)に神奈川県から事務局を引き継ぎ、平成22年度7月9日(金)に埼玉県に引き継ぐまでの16ヶ月間、10都県の各事務局との連絡調整・各都県の分担金の徴収・関係書類の発送・関東地区理事会・事務局長会・代表役員会の企画・運営等

に携わってきました。

二つ目は、関東甲信越地区研究協議会の大会事務局です。栃木大会の県内の運営面以外に文科省等の諸団体や各参加者及び各都県との手続き上の業務に携わってきました。

三つ目は、本来の県中学校長会の事務局です。

これら3種類の事務局を担うに当たって、少々の混乱はありましたが、無事遂行することができ、多くの会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

(事務局長 後藤 明)

❖❖❖ 県教委との教育懇談会 ❖❖❖

広報部長 半田全孝
(宇都宮市立姿川中学校長)

平成22年8月9日(月)、ホテルニューイタヤにおいて、「県教委と小・中学校長会との教育懇談会」が開催された。

小学校長会20名、中学校長会11名で臨み、始めに、小学校長会の九津見幸男会長が挨拶をし、県教委(総勢17名)からは、宇田貞夫教育次長様にご挨拶をいただいた。

提案事項に入り、総務部長の久保徹・宇都宮市立一条中学校長が説明を行った。

◎中学校提案事項

- 1 現状を踏まえた教職員人材確保と教職員配置の改善
- 2 特別支援教育推進のための諸条件の整備
- 3 授業時数増に伴う事務量の削減
- 4 教員免許更新制のスムーズな運用と受講者に関する負担軽減
- 5 総第1号指定研修指定に関わる教員の派遣

今回は、教育改革が進展する中、急を要する教育環境の充実整備という点を中心に5点に絞って提案した。

県教委からは各担当者が一つ一つの事柄について、本県の現状や展望を示しながら、今後も財政の許す限り努力を惜しまないことや国への要望を鋭意努力していく旨の回答があり、さらに、僅かな時間ではあったが、形式にこだわらない協議がなされ、有意義な教育懇談会となった。



県教委・県立高等学校長会との懇談会

進路対策部長 小林克敏
(日光市立日光中学校長)

平成22年10月18日(月)栃木県教育会館において、県教委、県立高等学校校長会と公立中学校長会(正副会長、進路対策部長)が出席)との懇談会が開かれました。懇談会の内容を下記に報告します。

1 1日体験学習について

- (1) 特色ある体験内容を検討してほしい。
- (2) 開催日、期間、近隣高、同系列高の重なり等について検討してほしい。

2 入学選抜方法について

- (1) 調査書を今後も重視してほしい。
- (2) 調査書の評定以外の扱いについては。
- (3) 推薦入試の規準を明確にし、多様な推薦の形を考えてほしい。(普通科の推薦入試の検討は)

3 募集方法について

- (1) 出願変更2日目締切を午後4時30分には。
- (2) 願書・調査書同時提出、即日受検表の票の受

領ができると有難い。

- (3) 学悠館高校の願書について。
 - (4) 他県への入試手続き等について。
- ### 4 その他の提案事項
- (1) 受検料の納入方法について
 - (2) 入試細則説明会、試験日、発表日、HPの掲載時期等できるだけ早くしてほしい。
 - (3) 合格発表を各高のHP上でおこなってほしい。
 - (4) 特別支援学校の調査書をPC処理を可能に。
 - (5) 中高一貫校の情報を詳しく公表してほしい。

等の提案事項を懇談した結果、4の(2)については、次年度メールで合格番号の交付の検討がなされているとの回答でした。各提案に、前向きに真摯に回答を頂きました。すぐにといいわけにはいかない部分もありますが、今後とも繊細な配慮で、双方に働きかけをして、中高の連携を深め、あり方を検討し、特色化を進め、魅力ある高校づくりに努めていくとの回答を得て、有意義な懇談会になりました。

地区校長会だより

上都賀地区中学校長会

上都賀地区は、市町村の合併により、現在は日光市、鹿沼市、西方町の2市1町で構成され、26の中学校が点在する。各学校は、都市部、農村、観光地、山村部、山間僻地と教育環境に大きな違いが見られ、生徒数約900名の学校から10数名の学校までその規模や立地条件等にも大きな差がみられる地域である。

上都賀地区中学校長会は今年度開催の全日中高知大会第2分科会での提案に向け、平成19年度より年3回の定例研修会等において研究テーマ、研究内容、研究の成果と課題等について協議を重ね、それに沿った取り組みを各学校毎に実践してきた。平成19年度を本研究の第1年次として取り組み始め、1年次、2年次は「自主的な学習習慣の形成」を狭義的に捉え「自分の課題に自ら解決方法を見つけ、自主的に家庭学習に取り組む」ことをねらいとし、全学校においてアンケート調査を年2回実施してきた。その結果を比較検証し、各学校の実態に応じた学習指導

を行ってきた。平成21年度の3年次からは「学校における学習指導と家庭学習」を両輪と捉え、定例研修会等において、学校規模別の班を編制し班別協議を重ね各学校の課題と具体策を明らかにしながら実践してきたところである。

これまでの研究をとおして、①3年間にわたるアンケートによる実態調査を踏まえ、全中学校が協力して研究を推進することができたこと。②同一のアンケートを継続実施することにより家庭学習の総体的な実態を知ることができたこと。③年3回の研修会で学校規模別に協議を進めた結果、課題を的確に捉え、その具体策について継続的に研究が深められたこと。などを高知大会において提案することができた。今後も引き続き自主的な学習習慣の定着を目指した研究を推進するとともに、実践への指導力を十分に発揮していく必要があると考える。

本地区校長会は、今後も全員参加の研究推進を目指しエネルギーに活動していきたい。

[鹿沼市立北押原中学校長 高橋 臣一]

下都賀地区中学校長会

〈フットワークのよい組織〉

本会は、平成18年1月10日の下野市発足に伴い、平成18年度より、下野市・都賀町・大平町・藤岡町・岩舟町・野木町・壬生町の1市6町14校で活動してきた。

しかし、本年3月29日の旧栃木市、都賀町・大平町・藤岡町の合併により、新栃木市が誕生したことを受け、本年度から下野市、岩舟町・野木町・壬生町の中学校9校となった。

このことにより、PTAや教育会については、それぞれ単独で県に加盟し、活動するようになった。一方、校長会については、9校で組織しているが、学校教としても適正規模で、フットワークもよく効果的に活動できている。また、役員は会長(1)、副会長(1)、庶務(1)、研修・厚生(3)、会計(1)、監事(2)とし、全員で役割を分担し、会の運営に当たっている。

〈有意義な研修〉

研修会については、原則毎月開催し、会場は各校持ち回りとなっている。

会の冒頭には、各市町の教育長より、年に1回はご講話をいただいている。4名の教育長より、学校経営に役立つお話をいただけることが、本会のよさでもある。野木町中野教育長の「不況下における学校経営」、岩舟町若林教育長の「教育困難時代と学校教育」等のご講話は、特に印象深く大変有意義であった。また、会場校の校長より、学校概要の説明、特色ある学校経営や課題についてご説明をいただき、大変参考になっている。加えて、学校数も少ないので、情報交換に十分な時間をさくことができ、自校の学校経営に役立っている。

〈次年度に向けて〉

一昨年より組織力を高める学校経営一課題解決が図れる組織力の向上をテーマに研究し、今年6月の関東甲信越地区中学校第62回研究協議会栃木大会で発表することができた。協働性を大切にしながら今後更に研究を深め、次年度の県の研究発表に向け、準備していきたいと考えている。

[野木町立野木中学校長 金山 哲郎]

那須地区中学校長会

那須地区中学校長会の研修会について

関プロ栃木大会では、地区を代表して発表する機会をいただきましたが、質問に対して適切な回答ができなかったなど反省点が残りました。

那須地区中学校長会では、栃木大会を見越して平成18年度から研究体制を見直し、那須地区の全中学校が、一つの研究組織として研究を推進してきました。各市町から選出された研修部員5名が中心となり、研究の内容や進め方について検討し、これを全体研修会で会員に提案し、了承を得て研究を行っています。

栃木大会では、「小・中学校間の連携を図った生徒指導の充実」をテーマに発表しましたが、2年前から本テーマで研究に取り組んできました。各中学校の実態を把握するために、会員や小学校長にアンケート調査を行い、この結果を基に小・中学校が連携した生徒指導の推進について、研修部員が検討し、各中学校に研究推進をお願いしました。

本地区では、毎年小・中学校長が合同で研修会を開催し、研究発表を行っています。本研究を進めるにあたって、この研修会において小・中合同で研究協議を行い、小学校長からも意見をもらい研究の参考にしました。

今年度の研修会は、11月12日に行いましたが、今回は小学校の関プロ大会に向けた研究発表について、4班に分かれて小・中合同で熱心な研究協議が行われました。

[大田原市立湯津上中学校長 鈴木 政則]



今年度の小・中合同研修会

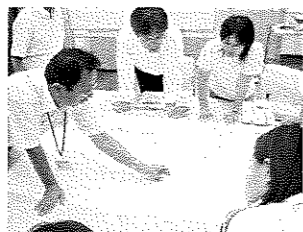
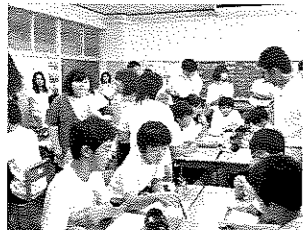
私の学校経営

校内研修ではぐくむ職員の目的意識

宇都宮市立豊郷中学校長 小林 修 一

私は、これまでの小学校1校と本校での校長としての勤務の中で、一貫して校内研修を学校経営の中核に位置付けてきた。学校教育が保護者・地域に認められ、その目的を達成するためには、職員一人一人の指導力や人間的魅力をはぐくむとともに、職員集団が一つになって教育に取り組む学校づくりが不可欠である。そこで校内研修の時間を生み出して実施し、学ぶ職場の雰囲気醸成を醸し出すことで、職員一人一人の教育力をつけるとともに、職場の統一感や自校教育の目的意識を持たせようと考えた。

本校では主に次のような実践を行った。



1 全職員参加で行う教科の授業研究

- ・生徒の学びを一人の人間の成長の一場面としてとらえ、支援に役立てる。
- ・他教科の指導を自教科の指導に生かす。
- ・グループでの研究協議を取り入れ、生徒の発言や表情・動作などの見取りをもとに、内面の学びに迫り、指導法の改善に役立てる。

2 授業公開週間

小中一貫教育などの施策が導入され、研修時間の確保が難しくなったが、職員の発想で、前項の取組の発展として生み出された。

- ・5日間の中で、一人2時間以上指定して公開し、一人が3人の授業を参観する。
- ・参観後に「授業者へのラブレター」として感想や意見のメモを送る。そのメモの全職員分を冊子にして回覧し、参考にし合う。

3 その他の研修

- ・学校組織マネジメントの手法による研修
- ・ギリシャ哲学、経営の視点からの接遇研修など

人間性豊かで調和のとれた生徒の育成を目指して

益子町立七井中学校長 吉河 英和

1 教育指標と教育目標

本校の伝統と校風を示して、「清く」「新しく」「睦まじく」を教育指標として、三つの教育目標、「自主的に学ぶ生徒」「情操豊かな生徒」「健康で気力あふれる生徒」を定め、これらの教育目標を達成するため、以下の学校経営方針をもとに、日々の教育活動を展開している。

2 学校経営方針

- ① 「教育は人なり」を信条として教育実践を行う。全教職員で温かさ、感動、希望に満ちあふれた学校づくりを進める。
- ② 「命と時間を大切に教育」を進める。自分と周りの人の命や人権を大切にし、今できることに全力を尽くして努力する教育を実践する。
- ③ 「教育課程の確実な実践、質的管理」に努める。教育目標具現化のため、計画的に一貫性のある教育活動を展開する中で、「学ぶ喜び」「学び方」を体得させ、生徒たちの「生きる力」を育てる。
- ④ 「家庭、地域社会との連携を密にした教育」

を推進する。

保護者や地域の方との信頼関係のもとに、開かれた学校づくりを推進する。

3 成果と課題

「あいさつがしっかりできる生徒」、「目標を持って、達成のため努力を積み重ねる生徒」、「思いやりの気持ちを持って生活できる生徒」、この三点については、学校経営方針を受けた、重点目標として継続して指導している。学校生活の状況を見ると、あいさつのできる生徒が増えてきたり、各種大会やコンクールでの活躍も見られるようになってきたが、目標達成のために、今後も、根気強く指導していかなければならない。



地域の未来を担う覚悟

～人生、意気に感じて～

塩谷町立塩谷中学校長 上野 武

本校は、平成17年4月に統合開校して6年目を迎えた。いまや、本町に唯一の中学校である。

私は2代目。着任2年目となる。

静かで豊かな自然と、子ども達を鍛え上げる教育・運動施設等に恵まれている。

町が地元民の総意の上に築いてくれたこの教育環境を生かす。本校の現在を充実させることが、10年後20年後の町の運命を握ると覚悟する。

現在までに、本校の色は出てきた。規律正しく、ものごとにもじめに取り組む、団結と集中は強い。

いま、たくましさ育てようとしている。

健全な精神は頑健な体に宿ると信じる。頭は首の上に載る。授業の充実と並んで部活動等に力点が入る。職員も使命感と情熱で取り組む。

その一つの象徴が校内持久走大会。5月から11月まで、月例的に年間6回を実施（その仕上げ＝最終目標＝が11月の校内駅伝大会）。

毎回、全員が走る。遅くても走る。先生も走る。

トシも忘れて走る。死にそうな顔しても走る。

笑顔が満ちる。拍手が起る。

さわやかさは、高台を渡る風ばかりではない。



校内持久走大会の様子

いま、『青春修行道場』塩谷中は、第2ステージに進もうとしている。目指すは大きく、また多い。集約した。

『元気・礼節・夢の力』

である。

新しい伝統を、今、つくりはじめた。

新任校長の一言

新任校長として

栃木市立吹上中学校長 鈴木 正 俊

今年4月に新任校長として赴任しました栃木市立吹上中学校は、栃木市の北部に位置し吹上城跡の小高い丘の上にある中学校です。学校の南側にある窓からは栃木市街地が一望でき、緑あふれる素晴らしい環境の学校です。学校入り口から校舎まではなだらかな坂道があり、坂下に自転車置き場とプールがあります。生徒たちはその坂を“あいさつ坂”と名付けて、毎日大きな声であいさつしながら登校しています。

生徒は落ち着いた生活で学習に励み、特に朝の読書活動は教師と生徒が今日一日精神を安定させるために重要な時間になっています。部活動も活発で、全員が自分にあった部活動を選択し練習に励み、各種大会で活躍しています。

本年度の学校経営の方針に「元気・やる気・笑顔」をスローガンに掲げました。毎日が楽しく学習や運動するには、まずは健康第一で常に“元気”でなけ

ればなりません。また、何事にも“やる気”をもって意欲的に取り組む姿勢を持ち続けることも大切です。それに、人に優しく穏やかな雰囲気をも自分からつくり出す“笑顔”があれば、充実した中学校生活になると確信しています。

本校は、PTAをはじめとする吹上地区の住民の皆様からの積極的な御支援もあり、先生方および生徒たちが本気で元気あふれる活動を心がけています。それによって、まさしく吹上中学校がめざす学校像の「自校の教育活動を誇れる学校」となっています。

今後も、工夫改善に努めながら「自校の教育活動を誇れる学校」に磨きをかけていきたいと思ひます。

新任校長として

佐野市立吾妻中学校長 津布久 貞 夫

本校は、佐野市の南西部に位置し、学区の南端に渡良瀬川が流れ、水田と桃や梨の果樹園が広がる。4月当初は桃の花が咲き、少し送れて梨の花が咲き誇り、まさに桃李の里に学校がある。

生徒数62名の小規模校で、「知・恕・健」の三つの教育目標の下、私は、それぞれの生徒たちが吾妻中学校に学んでよかった、吾妻中学校の生徒でよかったと実感できるような教育活動を教職員とともに実施してきた。それらの多くは、前任の校長先生から引き継いだものばかりであるが、諸先輩たちが残してくれたよき伝統を受け継ぎ、それをさらに発展させていくことの難しさや責任の重さを時々感じている。とほいうものの明るく元気な生徒たちと過ごす日々は、楽しいものである。

また、同じ敷地内にある吾妻小学校との連携は、各方面にわたって密度が濃く、地域と小中学校合同の運動会や、小学校への中学校教員の授業の乗り入れなど、年間の連携行事は多く、折にふれ、新しい発見をしている。さらに地域を挙げて学校を支援し

てくださる人たちの心の温かさを行事の度に感じている。

「とにかく地域をまわることですよ。」という前任の校長先生の助言どおり、機会あるごとに地域に出て、地域の人たちに会うことにしている。そんな時、町会長さんをお願いした通学路の信号機の改修があったという間に済んでしまったのには驚いた。学校や生徒を大切に思う地域の人たちの温かい気持ちを感じたできごとである。

今後も諸先輩方のご指導、ご鞭撻をいただきながら、吾妻中学校に伝統的に息づく学校文化をしっかりと見つめ、学校の役割とは何か、教職員の使命とは何かを常に考えながら、学校経営に努めて参りたいと考えている。